

早期景気観測調査 新潟商工会議所管内 11月分 各業界からのコメント

◎建設業

- ・建設業界全般で技術者不足である。新卒採用における応募者減少、従業員の高齢化とマンパワー不足が最重要課題となっている。
- ・目に見える第8波の影響はないが、引き続き感染対策を緩めない。
- ・民間の建設投資は引き続き増えつつあるが、公共工事は絶対量が少なく競争が厳しめである。

◎製造業

- ・電気関係の部品納期は一部改善も見られるが、相変わらず1年以上など長納期品が多い。客先の了解を得ながら工程調整を進めている。
- ・製品をつくるために必要な機器部品の納期の長期化が続いている上に、値上げの話が舞い込んで困っている状況である。
- ・全国旅行支援・県民割・GoToEat・地域のお店商品券等を活用し、通常の楽しみを共有できるかと思っていたが、第8波などのニュースもあり、足がすくみがち。
- ・全てにおいて値上がりしている中でどこまで価格転嫁せずにいけるのか、企業努力にも限界があると思う。
- ・ステンレス材ニッケル価格の高騰は収まったが、しばらくはこのまま落ち着く。半導体関係の設備は来年少し減る傾向。
- ・輸入原材料のほか、国産原材料も値上げを要請され、燃料をはじめあらゆる経費が増加し、経営を圧迫している。
- ・第8波に襲われると、社内の休業者が増え、操業が制限される恐れがあるため、ますます経営を圧迫される可能性がある。

◎卸売業

- ・公共資材卸のため、秋は降雪前の駆け込み受注で繁忙。ただし、発注元の発注件数は少なく、年越し後、資材卸は厳しくなると予想される。
- ・清酒等の販売企画をやるべきではないか。今後消費者の購買方法が変わっていくことが予想されるため、小売卸等新しい売り方を考えるべき。
- ・今年は天候による被害も少なく秋商材は順調な入荷となっており、Go To Eatの外出需要の喚起により消費の拡大が期待されるが、コロナの再拡大、物価高の影響が懸念される。

◎小売業

- ・当社の場合、例年10月から12月は売上がアップする時期であるが、例年に比べ4月から9月がコロナの影響やロシアの戦争問題の影響から原材料の高騰で売上も業況も悪かった。10月からはやっと例年並みの動きになってきており、イベント関係なども活発になり、年末に向かったの必需品の発注等が出てきている。12月までは何とか昨年並みか、もう少し売上アップが期待できそう。

◎サービス業

- ・第8波がどうなるか、イベント中止にならないと良い。業種的に冬期はきびしい。
- ・第8波の兆しが見えている。感染または自宅待機の影響による稼働減が懸念される。
- ・建築設計業界は資材の高騰などで一時的に混乱があったが、今は高いなりに正常に推移している。
- ・年末に向けて需要が伸びることを期待するが、コロナ感染者が増加傾向にあるため先行きは不透明である。
- ・燃料の高騰については、政府介入により価格が下がり気味で推移していることは大変助かる。
- ・昨年と比べ、イベントの開催が増えている関係でそれに付随する業務が増加している。また、これまで計画だった施設の建築が完了したり、現行の施設も改修などが増えている。
- ・原材料の価格が次々と値上がりしているため、製品の価格も注意して金額を決めないといけない。
- ・従業員が高齢化し退職していくにもかかわらず、若い人が新規に応募もしてこないため人手不足が継続している。
- ・新潟花火が無事に開催されるなど、イベントに動きが出ている。
- ・円安が続く相対的に厳しい状況が続いている感じがする。
- ・燃料価格の高止まりに加え、人材不足による外注コスト増の影響も長期化している。これから年末は繁忙期となるが、コロナ第8波による感染拡大が心配である。
- ・道路交通法改正法により10月からアルコールチェックが義務化されることに伴い、検査機器の販売が好調に推移したことが売上に貢献した。
- ・イベント各種が順調に開催されたことも好材料であったが、エネルギー価格の高騰による仕入価格が上昇したことで、販売価格に転嫁できない業種では利益を圧迫する状況となっている。今後もこの傾向は続くと予想する。
- ・第8波が見込まれる中、人流・売上とも減少してきている。
- ・新潟市中心部では14年ぶりに運賃改定され各社料金は上がっているが、その効果も感じられない
- ・全国旅行支援も新潟県は早々に予算の限界で販売停止となり、全く効果も期待できない。かろうじて燃料費の高騰部分に行政からの支援はあるが、焼け石に水状態であり、公共交通機関存続の危機だと言える。
- ・イベントや飲み会など人の動きが出始め、業務的に好転しはじめている。第8波など気になる所もある中で、人が動かなければ経済も回らないのが現状。